



# 画期的な文献

「通知」発表二周年を記念して

北 京 外 文 出 版 社

画期的な文献

『通知』発表二周年を記念して

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』編集部

外文出版社  
北京

## 毛主席のことば

プロレタリア文化大革命は、実質的には、社会主義の条件のもとでの、プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対する政治的大革命であり、中国共産党およびその指導下にある広範な革命的人民大衆と国民党反動派との長期にわたる闘争の継続であり、プロレタリア階級とブルジョア階級との階級闘争の継続である。

## 毛主席のことば

広範な人民の民主がなければ、プロレタリア独裁をうち固めることはできず、政権は安定しないであろう。民主もなく、大衆を立ちあがらせることもなく、大衆の監督もなければ、反動分子と悪質分子にたいして効果的な独裁をおこなうことはできず、かれらにたいして効果的な改造をすすめることもできず、かれらは攪乱をつづけるであろうし、なお復活の可能性もある。この問題は警戒すべきであり、同志諸君にもよく考えてもらいたい。

## 出版者のことば

毛主席がみずから主宰して制定した中国共産党中央委員会の一九六六年五月十六日の「通知」（本社出版の『通知・偉大な歴史的文献』）は、プロレタリア文化大革命をおこなうための画期的な文献である。毛主席が「通知」のなかでうち出した、プロレタリア独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての理論、路線、方針、政策は、マルクス・レーニン主義を創造的に発展させた。

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』編集部が、『通知』発表二周年を記念して書いた重要な論文『画期的な文献』は、ここ二年らい、プロレタリア文化大革命が、政治、思想、組織の面でもかちとった偉大な勝利を深く、全面的に総括した。これは、政治の面では、わが党内にも、ぐりこんでいた中国のフルシチョフをかしらとするブルジョア司令部をたたきつぶし、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派、反革命修正主義分子、裏切り者、特務、反革命の二面派がわが国のプロレタリア独裁を転覆し、資本主義を復活させようとたくらむ罪惡的な陰謀を粉砕した。思想の面では、ひとにぎりの階級敵にたいし革命的な大批判をくりひろげ、毛沢東思想の大普及をうながして、プロレタリア階級に思想の面で、いちだんと支配的な地位をかちとらせた。組織の面では、革命的「三結合」を実行するまったく新しい権力機構、すなわち、プロレタリア独裁の基盤となる力（革命的大衆の代表、

堅固なる柱石（人民解放軍の代表）、指導の骨幹（革命的幹部の代表）をかたく結びつける革命委員会があらわれて、プロレタリア独裁を強化した。この論文は、プロレタリア革命派と広範な革命的大衆が毛沢東思想の旗じるしのもとに確固として団結し、毛主席のプロレタリア革命路線をだんこ貫きとおし、人類史上はじめてのプロレタリア文化大革命の全面的な勝利をかちとるために、たゆむことなくたたかおう、と呼びかけている。

## 画期的な文献

——『通知』発表二周年を記念して

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』編集部

（一九六八年五月十七日）

二年まえ、輝かしいマルクス・レーニン主義の歴史的文献——中国共産党中央委員会の一九六六年五月十六日の『通知』が、偉大な指導者毛主席みずからの主宰のもとに作り出された。

この『通知』は、プロレタリア文化大革命をおこなうための画期的な文献であり、社会主義の条件のもとで、プロレタリア階級と広範な革命的大衆がブルジョア階級とすべての搾取階級にむかって進軍するための戦闘命令である。

二年という期間は短いものである。だが、この二年間におこった革命的变化は、なんと大きなものであろう。毛主席が『通知』のなかでうち出した、プロレタリア独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての理論、路線、方針、政策は、ブルジョア反動路線の数かずの

抵抗を粉碎し、わが国のプロレタリア革命派となん億という革命的大衆を武装し、マルクス・レーニン主義の巨大な威力を発揮した。史上に例をみないプロレタリア文化大革命は、二年の間に、すでに決定的な勝利をかちとった。

一

毛主席は『通知』のなかで、つぎのように指摘している。全党はかならず「プロレタリア文化大革命の大旗を高くかかげ、例の反党、反社会主義のいわゆる『學術権威者』のブルジョア階級の反動的立場を徹底的に暴露し、學術界、教育界、報道界、文学・芸術界、出版界のブルジョア階級の反動思想を徹底的に批判し、これらの文化領域における指導権を奪取しなければならぬ。このことをなすとげるには、かならず同時に党内、政府内、軍隊内および文化領域の各界にまぎれこんだブルジョア階級の代表者を批判し、これらのものを一掃しなければならず、一部のものにはその職務の異動をおこなわなければならない」。

「党内、政府内、軍隊内および文化界の各方面にまぎれこんだブルジョア階級の代表者は、反革命修正主義分子であって、いったん機が熟せば、政権を奪取して、プロレタリア独裁をブ

ルジョア独裁に変えようとする。これらの人物のうち、一部のものはすでにわれわれによって見破られているが、一部のものはまだ見破られておらず、しかも一部のものは現にわれわれから信頼され、われわれの後継者として養成されている。たとえば、いまわれわれの身邊に眠っているフルシチョフ式の人物がそれである。各級の党委員会はこの点に十分注意しなければならない」。

この二年間のプロレタリア文化大革命の実践は、毛主席のすぐれた予見の正しさを十分に証拠だてている。人びとは、毛主席のこれらの指示が、マルクス・レーニン主義のプロレタリア独裁の学説を創造的に発展させたものであり、それは、わが国においてプロレタリア独裁をうち固め、ひきつづき社会主義革命をおこなうことにとっても、国際共産主義運動にとっても、深遠な歴史的役割を果たすものであることを、ますます深く認識してきている。

この二年にわたる、かつてない大規模な革命的大衆運動は、まるで大海の怒とうのように、わが党内に潜伏していた中国のフルシチョフをかしらとするブルジョア司令部をたたきつぶし、例の反共、反人民、反毛沢東思想の反革命修正主義分子や、例の裏切り者、特務、反革命の二面派を洗い流して、わが国のプロレタリア独裁を転覆し、資本主義を復活させようとたく

らむかれらの罪惡的な陰謀を粉碎した。

現在、摘発された大量の動かすことのできない事実によって、中国のフルシチョフら党内最大のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派は、国民党反動派の利益を代表し、帝国主義、ブルジョア階級および地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派分子の利益を代表する反革命の黒い一味であることがすではつきりした。そのうち、かなりのものが国民党反動派の殘党である。中国のフルシチョフ——この党内最大の資本主義の道をあゆむ実権派こそ、帝国主義と国民党反動派の足もとに何回もひれふしたことがある恥ずべき裏切り者である。党内のもうひとりの最大の資本主義の道をあゆむ実権派および陶鑄、彭德懷、彭真、譚震林、羅瑞卿、陸定一、楊尙昆、安子文らは、いずれもわが党内に潜伏していた色とりどりの裏切り者、特務、反革命修正主義分子である。

これらのやからは、わが党内にもぐりこんで、重要なポストを少なからずかすめとついていた。かれらは、われわれの身邊に眠っているフルシチョフであり、わが党内に埋められた時限爆弾であり、社会主義の条件のもとでのプロレタリア階級のもっとも危険な敵である。いったん機が熟せば、かれらは政権を奪取して、プロレタリア独裁をブルジョア独裁に変え、社会主

義制度を資本主義制度、半封建・半植民地制度に変えようとする。そうなれば、中国は、ソ連や修正主義裏切り者集団に支配されている一部の国々における資本主義復活の歴史的悲劇をくりかえすことになり、国民党反動支配の暗黒な時代にあともどりすることになる。

われわれとこれらの反革命分子との闘争は、鋭くて複雑な、生きるか死ぬかの闘争であり、一つの階級が他の階級をうちたおす大革命である。まさに毛主席が最新の指示で深くほりさげて指摘しているように、「プロレタリア文化大革命は、実質的には、社会主義の条件のもとでの、プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対する政治的大革命であり、中国共産党およびその指導下にある広範な革命的人民大衆と国民党反動派との長期にわたる闘争の継続であり、プロレタリア階級とブルジョア階級との階級闘争の継続である」。この闘争の勝利が、プロレタリア独裁をきわめて強固なものにしたのである。

過去において、わが党は、広範な革命的人民大衆にたよって人民戦争をおこない、内外の強大な敵をうちまかし、国民党の反動支配をうちたおした。現在、新しい歴史的条件のもとで、わが党はまた広範な革命的人民大衆にたよって、プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対するこんどの史上に例をみない政治的大革命をひきつづきおこなっている。



例のきわめてずるがしこく、きわめて陰險で悪つな、あれほど長く潜伏し、あれほど深くもぐりこんでいたブルジョア階級の代表者、国民党反動派の残党は、まさに毛主席のプロレタリア革命路線のみちびきのもとに、なん億という革命的大衆と紅衛兵小勇將を立ちあがらせたからこそ、つまみ出され、白日のもとにさらけ出されたのである。

中国のプロレタリア革命派、なん億という革命的大衆と紅衛兵小勇將が今回の大革命のなかで、これらの階級敵にたいして魂をゆさぶる闘争をすすめてかちとった偉大な勝利は、プロレタリア階級の革命闘争史上で、不滅の戦闘的な光を永遠に放つであらう。

## 二

プロレタリア文化大革命の大衆運動は、これまでにみられなかった広さと深さをもって、ひとにぎりの階級敵に革命的大批判をくりひろげてきた。

『通知』に励まされて、プロレタリア革命派と広範な革命的大衆は、毛沢東思想の革命的批判の大旗を高くかかげて、党内最大のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派および各地区、各部門におけるその代理人がおかした反党、反社会主義、反毛沢東思想の極悪非道の犯罪

行為をつつこんで暴露、批判し、反革命修正主義路線を力強く批判し、ブルジョア階級とすべの搾取階級のふるい思想、ふるい文化、ふるい風俗、ふるい習慣を力強く批判してきた。

革命的大批判は、毛沢東思想の大普及をうながした。毛沢東思想を活学活用する大衆の熱情がこんちほど高まったことはこれまでなかった。人びとの精神的様相にはきわめて大きな変化がおこった。プロレタリア革命事業の後継者がいま闘争のなからぞくとあらわれていく。

革命的大批判によって、プロレタリア階級は思想面でいちだんと支配的な地位をかちとった。また、それによって、プロレタリア革命派は組織面で党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派をうち倒したばかりでなく、政治、思想、理論の面でもかれらを徹底的にうち倒して、政治、経済の面でもかちとった支配的地位をうち固めた。

政治、思想の領域では、東風が西風を圧倒するのだから、西風が東風を圧倒するのであり、またプロレタリア階級がブルジョア階級を圧倒するのだから、ブルジョア階級がプロレタリア階級を圧倒するのである。そこには、中間の道はありえない。

プロレタリア文化大革命のなかで、プロレタリア革命派は、ブルジョア反動派や毒草やよく

改造されていない地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派分子にたいしては、いうまでもなく断固として闘争をおこない、断固として批判をくわえなければならない。プロレタリア階級は、あくまでブルジョア階級を圧倒しなければならず、かれらにたいしては「平等」などを語ることは絶対にできない。まさに毛主席が『通知』のなかで指摘しているように、「プロレタリア階級がブルジョア階級と闘争すること、プロレタリア階級がブルジョア階級にたいして独裁をおこなうこと、プロレタリア階級がさまざまな文化領域をふくむ上部構造で独裁をおこなうこと、プロレタリア階級が、共産党内にもぐりこみ赤旗をかがげて赤旗に反対するブルジョア階級の代表者をひきつづき一掃することなど、こうした基本的な諸問題で、平等などというものの存在を許すことができるだろうか」。

ここ二年らい、わが国のプロレタリア文化大革命運動がちとった偉大な勝利は、毛沢東思想がブルジョア階級とすべての搾取階級のふるい思想にたいしておこなった革命的大批判の偉大な成果にほかならない。

毛主席はつねにこういつている。うち破らなければうち立てられない。うち破るとは、批判することであり、革命をおこなうことである。うち破るには、道理を説かなければならず、道

理を説くことがうち立てることであり、うち破ることを前面におし出していけば、うち立てることもそのなかにふくまれることになるのである。

この史上に例をみないプロレタリア文化大革命のなかで、また、このきわめて激烈な階級闘争のなかで、それぞれの階級の代表者、さまざまな異なった思想がこれからも舞台にあがって演技をやってみせるであろう。例の没落する階級の代表者は、なおもいろいろな偽装をこらし、二面派の口をつかって、人びとをベテンにかけるであろう。われわれはかならず「うち破ることを前面におし出せば、うち立てることもそのなかにふくまれる」という指示をひきつづき実行して、党内最大のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派、ブルジョア階級の反動的世界観にたいしてひきつづき批判をおこなわなければならない。

すべてのプロレタリア革命派の同志たちは、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、断固として毛沢東思想にもとづいて事をはこび、プロレタリア階級の高度の原則性を堅持し、中国のフルシチョフに代表される反革命修正主義路線を批判し、右翼日和見主義や形は「左」だが実は右の反動思想を批判し、さまざまな反マルクス・レーニン主義、反毛沢東思想の反動的流派を批判し、無政府主義を批判し、なわ張り主義やセクト主義を批判し、ブルジョア階級および

すべての搾取階級のイデオロギーのさまざまな現われを批判し、革命的大批判を最後までおしすすめて、プロレタリア文化大革命の全面的勝利への道を思想の面からはき清めなければならない。そして、毛沢東思想の偉大な赤旗を各戦線に高々とひるがえらせなければならない。

### 三

プロレタリア文化大革命の運動のなかで、プロレタリア革命派と広範な革命的大衆による革命的大連合の基礎のうえに、革命的「三結合」を実行するまったく新しい革命委員会があらわれた。まさに毛主席が指摘しているように、「『三結合』の革命委員会は、こんどの文化大革命における労働者階級と人民大衆の一種の創造である。」

毛主席は最新指示のなかで、つぎのようにのべている。

「革命委員会の基本的経験には三つある。一つは革命的幹部の代表がいることであり、一つは軍隊の代表がいることであり、一つは革命的大衆の代表がいることである。これによって革命的三結合が実現されているのである。革命委員会は一元化の指導を実行し、重複する行政機構をうち砕き、人員の精鋭化と行政の簡素化をおこない、革命化され、大衆と結びついた指導

グループを組織しなければならない。」

毛沢東思想の導きのもとに、革命的大連合を実現させた革命的大衆の代表、人民解放軍の代表、革命的指導幹部の参加するこのような革命委員会は、プロレタリア革命派と広範な革命的大衆がプロレタリア独裁の条件のもとでひきつづき革命をおこなうことについての毛主席の理論を把握して、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派にたいしおしすすめた下から上への奪権闘争のみのり豊かな果実である。それは、マルクス・レーニン主義の国家学説をひじょうに豊かにし、発展させた。

大衆運動のなかからつきつきとあらわれてきたプロレタリア階級のすぐれた人びとが国家管理に直接参加している、このような権力機構は、労働者・農民勤労大衆の根本的利益を代表し、人民大衆と広範で密接なつながりを保っている。こうして、われわれの各級の指導グループは、その革命化をすすめるうえでよりよい援助をうけることができ、各級の指導グループは、革命的で、プロレタリア階級の権威をそなえ、大衆と密接に結びつき、生氣あふれる権力機構になるうえでよりよい援助をうけることができるのである。プロレタリア独裁の基礎となる力（革命的大衆の代表）、堅固な柱石（人民解放軍の代表）、指導の骨幹（革命的幹部の代

表)をかたく結びつけたこのような革命委員会は、いちだんと軍隊と人民の団結、軍隊と政府の団結、幹部と大衆の団結を強め、プロレタリア独裁を強化して、われわれのプロレタリア独裁の国家機構を社会主義の経済的土台の必要にいつそう照応させ、プロレタリア独裁をうち固め、資本主義の復活を防止する必要にいつそう照応させている。

毛主席は早くからわれわれにこう教えている。「広範な人民の民主がなければ、プロレタリア独裁をうち固めることはできず、政権は安定しないであろう。民主もなく、大衆を立ちあがらせることもなく、大衆の監督もなければ、反動分子と悪質分子にたいして効果的な独裁をおこなうことはできず、かれらにたいして効果的な改造をすすめることもできず、かれらはひきつづき攪乱するであろうし、なお復活の可能性もある。この問題は警戒すべきであり、同志諸君にもよく考えてもらいたい。」(一九六二年の七千人集会の席上における演説)

プロレタリア文化大革命は、人民大衆を思いきり立ちあがらせた。広範な革命的大衆は、みなプロレタリア政権をうち固めるといふ大きな問題に関心をもっており、階級敵にたいする独裁にすんで参加している。これはごく少数のものにたいする圧倒的多数の人びとの独裁であり、ブルジョア階級とすべての反動分子にたいするプロレタリア階級と広範な人民大衆の独裁

であり、プロレタリア政党の指導下における人民大衆の独裁である。文化大革命がその全面的勝利を一步一步かちとり、また各級の革命委員会が樹立され、健全化し、発展するにともない、広範な人民大衆を動員して参加させているプロレタリア独裁は、その大きな革命的威力をますます發揮するであろう。

#### 四

プロレタリア文化大革命の大衆運動がうちたてた偉大な歴史的功績は、さん然と光り輝くものであり、不滅のものである。

プロレタリア文化大革命の大衆運動の勝利は、はばみえないものである。

末日を前にしながらもなおみずからの滅亡に甘んじない例のひとにぎりの階級敵は、骨髓に徹する階級的な恨みをいだき、気違いのように革命的な大衆運動に反対して、プロレタリア文化大革命の偉大な勝利を否定しようとたくらんでいる。だが、歴史の法則は情容赦のないものであり、かれらの意志によって左右されるものではない。かれらがどのようにその罪悪的な陰謀・破壊活動をおこなおうとも、また、かれらがどのように罪状をくつがえす右翼的妖風をま

きおこそうとも、最後には、革命的な大衆運動の前で粉砕されるだけである。

わが国のプロレタリア文化大革命がこの二年間にかちとったきわめて大きな勝利の影響は、全世界に広く波及し、各国の革命的な人民の戦闘的意志をふるい立たせている。帝国主義とその手先が支配している国であろうと、修正主義裏切り者集団が支配している国であろうと、われわれは、プロレタリア文化大革命が革命的な大衆運動をおしすすめるうえで果たしている一定の役割を見てとることができる。毛沢東思想にみちびかれたプロレタリア文化大革命は、敢然とたたかい、敢然と勝利する全世界の革命的な人民の英雄的気概を高揚させ、全世界のマルクス・レーニン主義者と広範な革命的な人びとの熱情あふれる支持をもちあえている。

中国のプロレタリア文化大革命は、帝国主義、現代修正主義、各国反動派の極度の恐怖、憎悪、ろうばいをひきおこしている。これらブルジョア階級の旦那どもは、つねにその望みを中国のプロレタリア文化大革命の「夭折」に託し、中国のプロレタリア政權の「崩壊」に託してきた。かれらは巫女のように、「文化革命の前途は暗たんたるものだ」と悪どくのろつていゝる。だが、勝利の前進をつづけるわが国のプロレタリア革命派と広範な革命的な大衆の足なみは、これらの旦那どものおろかな幻想を踏みつぶしてしまった。

わが国のプロレタリア文化大革命のさかまく奔流は、いま、あらゆる障害をつきやぶり、ますますい勢いで前進している。

われわれは、プロレタリア文化大革命の全面的な勝利をたたかいとるきわめて大切な時点にさしかかっている。われわれが直面している闘争任務は依然としてなみなみならぬものである。

こうした新しい情勢のもとで、われわれは毛主席の教えにしたがって、おごりやあせりをおさしめ、勝利にのって前進しなければならない。われわれは、たえず経験を総括し、つねに調査研究に深く注意をはらい、階級闘争の新しい動向、新しい特徴、新しい問題にとりくむことに習熟し、闘争の大方向をしっかりと掌握しなければならない。

われわれは、毛主席を統帥とし、林副主席を副統帥とするプロレタリア司令部の指導を断固として守り、プロレタリア司令部を破壊しようとする階級敵のあらゆる陰謀術策を暴露し粉砕しなければならない。みずからの階級隊列をいっそう純潔にし強固にし、同盟軍と団結し、それをかちとり、階級敵にたいしてひきつづき攻撃をかけなければならない。また、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾とを厳格に区別しなければならない。革命の隊列内のあやまりにたいして

は、毛主席の「前のあやまりを後のいましめとし、病をなおして人を救う」という伝統的方针を堅持しなければならない。

二つの路線の原則にかかわる是非を出発点とし、いっそう深くつっこんで革命的大批判をくりひろげなければならない。右または極「左」の面からのブルジョア階級の反動思想に批判をくわえ、右翼日和見主義、右翼投降主義、右翼分裂主義にだんこ反対し、罪状をくつがえす右翼的妖風を徹底的に粉碎しなければならない。

われわれは、より規模の大きい、毛沢東思想を活学活用する大衆的な高まりをもりあげ、ひきつづき全力をあげて毛沢東思想学習班をりっばに運営し、全力をあげて系統別、業種別、学級別による革命的大連合と革命的三結合をうち固め、発展させ、幹部や大衆の大多数と団結し、それぞれの単位の闘争、批判、改革をりっばにおこない、革命に力を入れ、生産を促し、仕事を促し、戦争への備えを促し、各方面の仕事をいっそうりっばにやりとげなければならない。

偉大な中国人民解放軍は、プロレタリア文化大革命のなかできわめて大きな功績をたてた。われわれは、ひきつづき擁軍愛民運動をくりひろげて、軍隊と人民の団結を強めなければならない。

ない。

われわれは、新しく生まれた革命委員会を愛護し支持して、革命委員会がたえず強化され完全なものになり、また、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、プロレタリア階級の政治を先行させる戦闘的な指揮部になるようにしなければならない。革命委員会は、いく百いく千万の大衆を指導して新しい勝利をたたかいとり、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければならない。

われわれは、毛沢東思想の旗じるしのもとにしつかりと団結をかため、毛主席のプロレタリア革命路線をだんこ貫きとおして、人類史上はじめてのプロレタリア文化大革命の偉大な歴史的使命を全面的になしとげるために、たゆむことなくたたかおうではないか！ 新しい勝利が前方でわれわれを招いている、われわれは勇気をふるって前進しようではないか！

画期的な文献

—『通知』発表二周年を記念して

---

1968年 初版発行

定価 30 円

出 版 者

外 文 出 版 社  
(北京阜成門外百万荘)

発 行 者

中 国 国 際 書 店  
(北京 P. O. Box 399)

---

編 号: (日) 3050-1802

3-J-871P

00014

既刊図書案内

★毛沢東著作★

毛沢東選集（第一巻）

本巻には、第一次国内革命戦争の時期（一九二四～一九二七年）と第二次国内革命戦争の時期（一九二七～一九三七年）における、毛沢東同志の十七編の著作がおさめられている。

三〇〇円

毛沢東選集（第二巻）

本巻には、抗日戦争が勃発した一九三七年七月から、蒋介石が発動した二回目の反共の高まりを撃退した一九四一年五月までの時期における、毛沢東同志の四十編の著作がおさめられている。

三〇〇円



毛沢東選集（第三卷）

三〇〇円

本巻には、一九四一年三月から一九四五年八月までの抗日戦争が最後の勝利をおさめた時期における、毛沢東同志の三十一編の著作がおさめられている。

毛沢東著作選

上製 五八〇円  
並製 四四〇円

本書は、日本の広範な読者の毛沢東著作学習の必要にこたえて、毛沢東著作選読編集委員会が中国共産党中央委員会毛沢東選集出版委員会の指導のもとに編集した『毛沢東著作選読（甲種本）』（一九六五年四月第二版）を完訳したもので、中国革命の各時期における毛沢東同志の著作の一部三十九編がおさめられている。

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

毛主席語録

赤色ビニール表紙 一五〇円

毛沢東主席の人民戦争についての語録

赤色ビニール表紙 二〇〇円

中国社会各階級の分析

三〇〇円

湖南省農民運動の視察報告

六〇〇円

中国の赤色政権はなぜ存在することができるのか

三〇〇円

党内のあやまった思想の是正について

四〇〇円

小さな火花も広野を焼きつくす

四〇〇円

大衆の生活に関心をよせ、活動方法に注意せよ

二〇〇円

日本帝国主義に反対する戦術について

四〇〇円

中国革命戦争の戦略問題

一〇〇円

抗日の時期における中国共産党の任務

四〇〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

実践論

矛盾論

抗日遊撃戦争の戦略問題

持久戦について

民族戦争における中国共産党の地位

戦争と戦略の問題

青年運動の方向

『共産党人』発刊のことは

中国革命と中国共産党

新民主主義論

延安の文学・芸術座談会における講話

四〇円

六〇円

六〇円

一〇〇円

四〇円

四〇円

三〇円

四〇円

六〇円

六〇円

四〇円

毛沢東同志は論じている——

帝國主義といっさいの反動派はハリコの虎である

アメリカの記者アンナ・ルイズ・ストロングとの談話

「人民に奉仕する」「ベチューンを記念する」「愚公、山を移す」

全世界の人民は団結して、アメリカ侵略者と

そのすべての手先をうち破ろう

——アメリカ黒人、ベトナム南部人民、パナマ人民、日本人とコンゴ  
(レ) 人民、ドミニカ人民の反米正義の闘争を支持する声明と談話

書物主義に反対する

敵に反対されるのは悪いことではなく、よいことである

農業協同化の問題について

三〇円

三〇円

三〇円

四〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店(北京)

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店(北京)

人民内部の矛盾を正しく処理する問題について

中国共産党全国宣伝工作会議における講話

人間の正しい思想はどこからくるのか

文学・芸術に関する五つの文献

中国共産党中央委員会主席毛沢東同志の、

アメリカ黒人の抗暴闘争を支持する声明

「中国の赤色政權はなぜ存在することができるのか」

「井岡山の闘争」「党内のあやまった思想の是正について」「小さな火花も広野を焼きつくす」

哲学論文四編

六〇円

四〇円

二〇円

二〇円

一〇円

六〇円

一〇〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

★重要決定、理論論文★

国際共産主義運動の総路線についての論戦

目次内容

国際共産主義運動の総路線についての提案

ソ連共産党指導部とわれわれとの意見の相連の由来と発展  
スターリン問題について

ユーゴスラビアは社会主義国か  
新植民地主義の弁護人

戦争と平和の問題での二つの路線

根本的に対立している二つの平和共存政策

ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である

プロレタリア革命とフルシチョフ修正主義

フルシチョフのエセ共産主義とその世界的教訓

フルシチョフはなぜ退陣したか

付 録

ソ連共産党中央委員会が中国共産党中央委員会にあてた書簡

ソ連共産党中央委員会がソ連各級党組織と全共産党員にあてた公開書簡

三四〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店（北京）

人民戦争の勝利万歳

——中国人民の抗日戦争勝利二十周年を記念して

林彪 四〇円

目次内容

抗日戦争の時期における主要な矛盾と党の路線  
統一戦線の路線と政策を正しく実行する  
農民に依拠し、農村根拠地を樹立する  
新しい型の人民の軍隊を建設する  
人民戦争の戦略・戦術を実行する  
自力更生の方針を堅持する  
毛沢東同志の人民戦争にかんする理論のもつ国際的意義  
人民戦争によってアメリカ帝国主義とその手先にうち勝つ  
フルシチョフ修正主義者は人民戦争の裏切り者である

中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定  
中国共産党第八期中央委員会第十一回総会の公報

三〇円  
三〇円

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店(北京)

近刊予告

★毛沢東著作★

毛沢東選集(第四卷)

本巻には、一九四五年八月から一九四九年九月までの時期における、毛沢東同志の七十編の著作がおさめられている。

井岡山の闘争

何百何千万の大衆を抗日民族統一戦線へ参加させるためにたたかおう

統一戦線における独立自主の問題

新民主主義の憲政

当面の抗日統一戦線における戦術の問題

政策について

出版者 北京 外文出版社 発行者 中国国際書店(北京)

われわれの学習を改革しよう

党の作風を整えよう

党八股に反対しよう

学習と時局

『農村調査』のはしがきとあとがき

第二次世界大戦の転換点

指導方法のいくつかの問題について

組織せよ

連合政府について

毛主席の五篇の著作

出版者 北京 外文出版社

発行者 中国国際書店(北京)

